

令和3年度第2回京都市伝統産業活性化推進審議会 摘録

1 日時

令和4年1月28日（金）午前10時～正午

2 場所

京都市役所正庁の間

3 形式

現地及びオンラインを組み合わせた会議

4 出席者

(1) 出席委員（敬称略）

会長 若林 靖永 京都大学経営管理大学院 教授

副会長 大野木 啓人 京都芸術大学 常務理事 教授

副会長 米原 有二 京都精華大学伝統産業イノベーションセンター長

各務 亮 ㈱電通 京都支社プロデューサー

THE KYOTO Creative Director

雁瀬 博 京の伝統産業春秋会会長

田中 雅一 京都伝統工芸協議会会長，京都府仏具協同組合理事長，
（公財）京都伝統産業交流センター理事長

平方 久美子 **HOTEL THE MITSUI KYOTO** チーフコンシェルジュ

廣岡 青央 （地独）京都市産業技術研究所知恵産業融合センター長

牧野 茜 市民委員

松井 元子 京都府立大学大学院教授

矢島 里佳 ㈱和える 代表取締役

※うち現地参加 若林会長，大野木副会長，米原副会長，各務委員，平方委員

(2) 欠席委員（敬称略）

金谷 勉 ㈱セメントプロデュースデザイン 代表取締役

田中 優衣 市民委員

デービッド アトキンソン

小西美術工藝社 代表取締役社長

出口 由美 ㈱ハースト婦人画報社 **HEARST made General Manager**

森 愛鐘 京の伝統産業わかば会顧問

5 議題

「第3期京都市伝統産業活性化推進計画の後半期5年間に向けて」

<田中雅一委員>

- ・現状では生活において、伝統産品を飾ると接する場所がないことが問題。(家を建てる際には)和室を作るような時流にしていくことが必要。
- ・文化庁の京都への移転を契機に、職員をもっと歓迎するようなイベントを開催して、京都の伝統産業をアピールしていくべき。失われつつある日本の文化を守るような事業を開催するようなことも重要である。
- ・京都伝統産業ミュージアムには立派な伝統工芸品が展示されているが、伝統産業従事者が行く機会が少ない。京都の伝統産業にとっては聖地的な存在なので、伝統産業に関わる人が集まるような拠点となるべき。

<各務亮委員>

- ・策定中の次期5年計画のビジョン、戦略は素晴らしい。しかし実際は出荷額が過去から継続的に減少しており、計画が十分に成果を上げているとは言い難い。
- ・それは、計画と予算のバランスに課題があるからと感じる。一方、現状の財政状況を考慮するに、行政予算にも限界があるので、外の投資を呼び込むことが求められる。プロデューサーを育て、外の業界と伝統産業を繋げ、掛け合わせていくことが有効ではないか。
- ・その点、ふるさと納税返礼品への出品施策と成果は学びがある。京都の伝統工芸品に相応しいストーリーを伝えられるテクノロジーやコラボレーション先を見つけることで、予算の課題を解決できるとよい。

<牧野茜委員>

- ・ヘビーユーザーとして、伝統工芸品は暮らしを豊かにすると確信している。
- ・しかし、一般には、「興味がない」、「分からない」、「あってもなくても変わらない」、「日々の生活に関わりがない」と感じられている。
- ・生活文化や風習などの延長線上に伝統工芸品がある。昔は暮らしの中で工芸品が自然に取り入れられていた。そうした文化を振興することが、伝統産業への理解にもつながると思う。
- ・「伝統工芸品を知らない」から「新しいもの・いいもの」というように価値観を転換しないといけない。

<平方久美子委員>

- ・観光用だけでなく、式典などハレの日にも使えるようなレンタルきもの選択肢が広がってもいいと思う。
- ・コロナ禍でオンラインショッピングが広がっている一方で、観光は、旅先で実際に見て触

れて買うのが醍醐味。伝統産業ミュージアムショップには、京都の工芸品が一通り揃っており、紹介しやすい。VIP の受入も可能なそういう場所が、より行きやすいところにたくさんあればいいと思う。

<松井元子委員>

・事業や技術の継承、後継者育成が大切。ただ、京都だけで伝統産業を継承していくのは難しく、修学旅行や動画配信などを通じて、世界に向けて伝統を守ることの重要性を啓蒙していくことが必要。

・行政が伝統産業業界とプロデューサー等とのマッチングを行うのはその通りだが、その具体的方策をどうしていくかが大事である。

<米原有二副会長>

・新商品を出すにしても、現代のライフスタイルに合わせやすい業種もあれば、合わせにくい業種もある。全員が同じ方向を向くのは難しく、業種ごとの特性を生かしながら時代に適合しなければならない。

・京都のものづくりの仕事の良いところは、お客様一人一人に向き合ったオーダー品がそろうところ。属人や個人のつながりで注文が来る。

・京都伝統産業ミュージアムは、ものづくりの拠点として、あらゆる伝統産業従事者や伝統産業に関わりたい方々、海外からのお客様の窓口的役割を担っていただければと思う。

・補助金については、効果追跡が重要だと実感。成果やそのプロセスを業界全体に共有し、波及させていくことが大切。

<廣岡青央委員>

・伝統産業ファンを増やすことが大事。今の子どもや若者は社会課題に関心が高い。伝統産業そのものと言える「SDGs」など、業界を挙げてコンセプトを持った取組が必要だと思う。

・学生など若者が伝統産業をどう捉えているのかを調査し、その結果を見て的確に対応していくことも考えないといけない。

<雁瀬博委員>

・伝統産業従事者には団塊の世代が多く、5年後には皆80歳代。技術継承は喫緊の課題である。

・技術の継承、後継者の育成を大切に思っており、業界として、残さなければならない技術を調査しているところである。

・京都工芸染匠協同組合として、ふるさと納税返礼品に47都道府県をテーマとした着物を出品し、十数点が選ばれた。業界として、京友禅の啓蒙になったことを喜んでいる。

<矢島里佳委員>

・事業継承は全国的な課題。今までのように、弟子にお金を払って事業承継するのは難しくなってきている。そこで、小規模事業者のM&Aがますます大事になる。和えるでは、M&AからM&A後のリブランディングまで支援事業を行って応援している。事業者にはM&Aという発想に至らない方々も多い。

・京都市と一緒に、京都から伝統産業のM&A型の事業承継の先進事例（社会貢献的なあたたかいM&A）を作り出して行ければと思う。

・関東経産局と共同で行っている、伝統産業事業者の成功例の調査資料が3月にはまとまる予定なので、また共有させていただく。

<大野木啓人副会長>

・5年後のビジョンや具体的な取組は完成度が高く、よくまとめていただいている。このビジョンをもとに施策を進めていけば間違いはない。

・コロナ後のライフスタイルをどうすべきか。人間として、どういった哲学を次世代に継承していくか。考えるべき節目がきている。

・そのような中、日本の文化、そして京都の伝統産業が国際社会の中で果たす役割は大きい。ビジネスを追求するだけでなく、思いやり、ハートを伝える。そのことでコミュニケーションが生まれ、人々がわかり合う。

・我々は、こういったことを理解し、使命感、誇りを持って伝統産業の課題に取り組まなければならない。売上や出荷額も大事だが、理念に対する社会の支持を得ることで、伝統産業の活性化につなげていくという方法論もあると思う。